



【展示物名】 「鶴松館 書院」、「商家資料館」

【該当する学年】 小3 小4 小5 小6 中1 **中2** 中3

【学習指導要領】

<中学校2年>歴史的分野

(3) 中世の日本

ア 鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会的な変動などを通して、武家政治の特色を考えさせ、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジア世界との密接なかわりが見られたことを理解させる。

(4) 近世の日本

ア 戦国の動乱、ヨーロッパ人来航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを通して、近世社会の基礎がつけられていったことを理解させる。

ウ 産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどを通して、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解させる。

【写真】



【伊東氏と島津氏ゆかりの展示】



【商家資料館】

【展示物の説明および学習内容（ねらい）】

☆ 「鶴松館 書院」には、佐土原とゆかりのある大名である伊東氏と島津氏に関する展示がある。なかでも島津氏の等身大の具足(鎧兜)は、ひときわ目につく。また、伊東氏と島津氏は、覇権を争って3度大きな合戦をおこし、敗れた伊東義祐氏が孫の伊東マンショを連れて豊後へ逃れるが、この逃避行の図が展示されている。その横には、天正遣欧少年使節の代表として有名である伊東マンショが、白馬にまたがり、欧州の街並を闊歩する挿絵も展示されている。

「商家資料館」は、2階建ての寄せ棟づくりで、宮崎市指定有形文化財として保存されている。江戸時代の面影を残した商家では、1階は番頭などが勘定する勘定台があり、来客をもてなす書院風の間もある。2階はお椀や秤（はかり）等の生活様式が陳列されている。

☆ **中学校2年「応仁の乱と戦国大名」**では、伊東氏と島津氏ゆかりの展示品によって、武力を使って領地を拡大した武士の成り立ちや、伊東義祐と島津義弘の「木崎原の戦い」(1572)や**「関ヶ原の戦い」(1600)に佐土原が深く関与していた**ことを知ること、当時の時代背景を学習できる。

☆ **中学校2年「さまざまな身分とくらし」**および**「都市の繁栄と元禄文化」**では、「近世の日本」の単位と関連して、味噌・醤油の醸造で財をなした**商家資料館を活用**し、陳列された生活用品を目にすることで、当時の商人の生活様式や文化を知ることができる。